

安対協に初めて参加して

原発ゼロの会共同代表 樋野伸一



今年度1回目の安対協が開催（ホテル一畑）

6月29日、今年度1回目の「松江原子力発電所環境安全対策協議会（安対協）」に初めて参加しました。大きな会場に間隔を空け、50人が1時間の短い時間で中国電力の不祥事（点検の未実施）についての弁明と再発防止策、原子力規制庁の保安検査実施状況聞き取りを行いました。

中電は、点検未実施について、過去2回大規模な手抜き点検を行い、反省したはずでした。福島原発事故を経験し、中電の企業体質が変わったのではないかと期待しましたが、また裏切られました。今回の不祥事の原因は「協力会社がやったこと、指導はしている」との中電の弁。反省が足りません。

質疑は、原発反対派の4人が質問し、中電に対して厳しい意見を言いましたが、中電として2号機再稼働は譲りませんでした。規制庁の報告は、中電の点検未実施2件について、極めて軽微のため「監視」処分とするこの報告があり、参加者から再三再四の未実施は「悪質」で「監視」では軽すぎるとの意見が出されました。

第2波への対策を要請

県に対して共産党県議団



松尾副知事に申し入れる党県議団

6月30日、日本共産党県議団は、県知事と県教育長に対して「新型コロナウイルス感染防止と経済・社会活動の再開を一体にするための申し入れ」を行いました。今回で、6回目の申し入れとなりました。

尾村利成・大國陽介県議、議員と、橘・吉儀・田中の松江市議団、出雲市の市議・市議候補が参加しました。

申し入れは、▽医療・介護従事者と入院患者、入所者への積極的な検査体制の整備▽医療機関、介護事業所、保育所等への減収分を給付する▽県独自の給付金制度の創設と中小企業、農林水産業者等への補助制度の拡充▽保育所、児童クラブへの職員加配・処遇改善▽来年実施予定の少人数学級編成見直しの中止 など7項目です。

松尾副知事は「検査は、抗原検査の方法も検討する。申し入れについて、しっかりと知事に伝える」と回答。

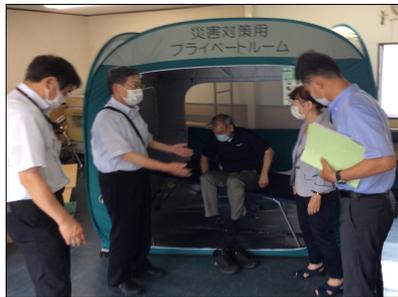
新田英夫教育長は、少人数学級編成見直しについて「円滑に移行が進むよう取り組み」と、スケジュール通り進めることを明らかにしました。

「コロナウイルスなどの感染症に備えた、災害避難の準備状況は」

市議団が、市防災安全部から学ぶ

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぎつつ、地震や大雨などの災害から命と安全を守らなければならぬ時代が始まりました。梅雨の時期となり、今年も全国で大雨による災害が発生する中、共産党市議団は、松江市の災害避難の準備状況を、足立博之市防災安全課長に学びました。

29日、市議団は市役所第3別館において、事前に実際に組み立てていただいた災害対策用プライベートルームについて説明を聞き、また、途中まで組み立てていただいた段ボールベッドを完成させる体験をしながら説明を聞くことができました。



災害対策用プライベートルームの使用法を質問する橘市議団長

発熱者が休めるプライベートルームを準備

これからの避難所運営でますます重要なのが、発熱などの症状がある避難者と症状のない避難者を分ける準備です。そのために、避難所内には、発熱などの症状がある避難者専用の災害対策用プライベートルームが設置されます。

市の第3次補正予算で164セット購入が予定されています。避難者の動線を考えて、できる

だけ症状のある避難者と無い避難者の導線が交わらないように設置を考えているとのことでした。

市議団は、全くと不安なく横たわりました。起き上がるのも楽です」と感想を述べていました。



やり方を教わりながら段ボールベッドを完成させる市議団

段ボールベッドの組み立てを体験

また、避難所の床に直に寝起きするのは、床に付着しているウイルスと触れたり、吸い込んだりする危険が増すことから、段ボールベッドの導入がすすむと、第3次補正予算で410セットの購入が予定されています。



組み立てた段ボールベッドに横たわる田中市議



足立課長に非接触型体温計で体温を測ってもらう市議

感染症に備えた災害避難の準備を市民と行政力を合わせて

これまでの、「とにかく避難所へ」という意識から、災害の種類と程度に応じた避難行動が必要な時代が始まりました。市防災安全部では、自治会の求めに応じて、出前講座にも取り組んでいます。市民と行政が力を合わせて、感染症に備えた災害避難の準備を進めることが重要です。

市議団は、全国や世界の例に学び、尊厳ある避難ができる施策を今後も求めていきます。